

## 「新木場UMIDOKO プロジェクト」

(株)榎戸材木店  
榎戸 勇人

～はじめに～

この度、組合月報寄稿の依頼のご連絡を頂きました。初めはお断りしたものの、一昨年他界した祖父榎戸勇が、生前に同誌に寄稿していたことが頭を過り、これも何かの縁かと思ひ受けさせていただきました。(祖父の手書きの原稿を、私が毎月組合宛にFAXしておりました。晩年は字もヨレヨレで、誤字や脱字、読めないような文字も多く、担当の方には苦勞をかけたのではないかと思います。そんなこともふと思ひ出されました。)

祖父や父とは違い文章を書くのはとても苦手ですので、駄文何卒ご容赦ください。

～新木場UMIDOKOプロジェクト～

昨年度より、数名の有志で「新木場UMIDOKOプロジェクト」という企画をスタートさせました。これは何かというと、新木場の水面を利用し、木質のフローティングハウスを中心とした新たな新木場のまちづくり、ひとづくり、ものづくり、魅力づくりの「物語をつくるプロジェクト」と銘打って活動している有志団体です。

2016年の7月にキックオフし、2017年度は江東区や東京都観光財団からバックアップをいただきながら「地域資源発掘型実証プログラム」の一環として進めており、「水面にもう一度木を浮かべよう」ということをコンセプトとし、ゆくゆくは、新木場の水面をフローティングビレッジ(水上に浮かぶ村)として生まれ変わらせていきたいという夢を持っています。

～きっかけ～

これを読まれている皆さんはもちろんご存知の通り、新木場は昭和49年頃に木場より移転してきて以来、木材の一大流通基地としての役割を担ってきました。しかし近年では材木屋の数も減少し、徐々にその流通基地としての規模も縮小しつつあります。

新木場の中心に位置する貯木場もまた同じく、かつては水面いっぱいに浮かんでいた丸太が、今ではもう数えるほど(本当に数えられそうです)になっています。余談ですが、以前に数年おきに発行されていた新木場の地図の中で、ある時から新木場の貯木場が「貯水場」と表記されるようになり、父がよく自嘲気味にお客さんにその話をしていました。



弊社の隣接水面も、水面保管していたラオスヒノキを5、6年前に京都の材木屋さんにまとめて売却して以来、“貯木場”から“貯水場”になっています。私も入社から数年、会社の大先輩にくっついて水面の上の丸太の清掃保全をしたこともあって、ラオスヒノキの丸太を水揚げしたときは少し寂しくもありましたが、これも時代の流れかと無意識に受け入れていました。

そんなある日、新木場の瀧口木材の瀧口宇一郎さんが、カラー復元された新木場の昔の水面の写真を片手に、弊社を訪ねて来ました。その日私は留守にしていたのですが、ウチの社員の話によると、「水面に丸太を浮かべて、その上で酒が呑みたい」としきりに言っていたとのことでした。

宇一郎さんのことは、同い年で、かつ元々の木場の会社がお隣ということで、以前から噂は聞いていたのですが、この時はまだ面識はありませんでした。社員の話を聞いたときは、「変わった人だな」という第一印象でした。

その後、彼と対面して話をし(その過程で前述の「変わった人」という印象はなくなり、すっかり仲良くなりました)、見慣れてしまった“貯水場”を改めてじっくりと眺める機会も増える中で、「こんなロケーションがあるのに、このままにしておくのはもったいない。新木場の水面をもっと有効に使いたい。」という気持ちが強くなっていきました。

そして、瀧口宇一郎さんを中心に、新木場の材木に関わる方と、コンセプトに賛同してくれた設計士さんや活動家さんなどの異業種の方の計数名で、新木場UMIDOKOプロジェクトの発足となったのです。

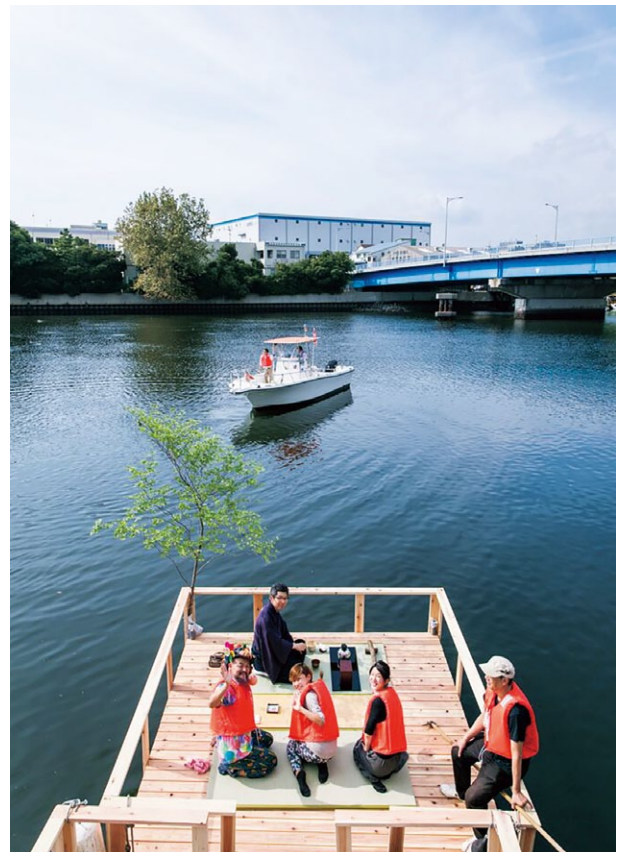


～2度のイベント開催～

「地域発掘型実証プログラム」に採択いただいたから、昨年10月と今年2月にイベントを行いました。

10月は「木の日」と題して水上・陸上にアート作品を展示したり、水上で茶会や神楽演舞を行い、2月は「木の音(きのね)」と題して木にまつわる楽器の演奏をするなどしました。その他にも、ワークショップやチェーンソーアートの実演、そして、来場いただいた方に水面に降りていただくイカダ体験会も行うなど、やりたいことを詰め込んだら、盛り沢山な内容になってしまいましたが、それぞれ1日のメインイベントと、数日間の展示・イカダの体験会を行い、延べ1,000人以上の方にご来場いただくことができました。

イベントを開催する中で、来場された多くの方に「とってもすてきな場所ですね」とか、「大人の



遊び場として最高だね」などの言葉をかけていただき、改めて新木場の水面の魅力を認識しました。

～これから～

新木場UMIDOKOプロジェクトとして2017年度2回のイベントを行いました。許可と安全性の面でかなりハードルが高いと感じています。特に許可面について、新木場の水面は木材を係留することを前提として存在しているので、他の用途で使用することがかなり難しいということがわかりました。使用するにあたり、高い公共性を求められたり、周りの水面の地権者さんの理解・協力が不可欠になってきます。

そこで2018年度は、前年度に行ったようなイベントによる活動の周知以上に、水面下での動きに力を入れていこうという話をしています。また、サポーター制などを作り、新木場の内外を問わず、活動に協力・応援をしていただける方を募って、活動の輪を拡げていければと思っています。

長々書きましたが、まだ産声をあげたばかりの企画で、これから少しずつ進めていけたらと考えています。

最後にビジョンを記載させていただきますので、新木場UMIDOKOプロジェクトの活動にご興味お持ちいただけましたら、お気軽にお声がけください。

～新木場UMIDOKOプロジェクトのビジョン～

新木場が木の街だったのは、もう昔の話。

時代の移り変わりとともに、海外の木材の集積地としての役割を担う場所ではなくなりました。

先代、先々代たちが歴史を紡いできたこの場所で、今の時代を生きている僕らがこれからの新木場の未来を考えたとき、「新しい木の場所」を今一度再定義し、別の形でまた木のある風景を取り戻すことは決して不可能ではないと信じています。





かつて世界中から集められた木材が浮かぶ貯木場であった水面が、  
いつか世界中から集まる人をもてなす場所として生まれ変わる。

「まちづくり」「ものづくり」「人づくり」そして「魅力づくり」  
水上木質化都市、文化の発信地として再スタートする新しい木の街「新木場」。  
それがSHINKIBA UMIDOKO PROJECTの描くビジョンです。

